

高齢者の人権 いくつになっても輝き続けるために

1 ある日の出来事

「おばあちゃんと店番」
 ほとくのつちは八百屋だ。
 「いらつしやいー」お父さん
 の元気な声が響く。「おばあ
 ちゃん座つといて下さい。」
 気づかうお母さんの声が聞こ
 えるのも、いつものこと。で
 も、なんだか最近おばあちゃん
 は元気がない。

「いらつしやいー、いらつ
 しいー」学校から帰ると、
 なんとおばあちゃんの声。
 「あれ、おばあちゃん一
 人？」「みんな配達に行つとる
 よ。今日は白菜がきれいです
 よ。はい、ありがたう。」いつ
 もと違うイキイキした表情。
 ちよつとゆつくりだけど、き
 ちんと野菜を包んで、お金を
 受け取る。お客さんも、おば
 あちゃんのアドバイスを元に、
 野菜を選んでいく。

「おかれと思つて『休んで下
 さい』つて言つていただけ、
 おばあちゃんにとっては、楽
 しみを奪われていたようなも
 のかもねえ。」いつの間にか
 帰つてきていたお父さんとお
 母さんが、明るいおばあちゃん
 の様子を見ながら話してい
 た。

2 考えてみましょう。

誰でも年をとると心身の機

能の低下が見られるものです。
 しかし、人は一人ひとり同じ
 ではなく、体力や判断の低
 下の度合いも人によって違
 います。

入契約を結ばされる悪徳商法
 による被害などが問題となっ
 ています。特に、記憶力や判
 断力の低下した認知症高齢者
 が被害に遭いやすい傾向にあ
 ります。

認知症とは

● 認知症は、単なる「もの忘
 れ」と違い「病気」
 単なる「もの忘れ」と違い、
 あつた事実そのものを忘れる、
 脳の障がいの原因でおこる脳
 の病気です。

「認知症の本人に自覚はない」は間違いです

● 認知症ではないか、という
 不安は健康な人の想像を絶す
 るものです。誰よりも一番心
 配、苦しい、悲しいのは当事
 者本人です。

● 早期発見・早期診断が大切

一見、認知症に見えても、
 実際にはそうでない場合もあ
 ります。本当に認知症だと診
 断されても、発症の原因に
 応じた、適切な治療やケアを受
 けることにより認知症の進行
 を遅らせることもできます。

● 早期に、専門医の診断を受
 けることが大切です。
 (熊本県人権センター
 「くらしと人権」より)

3 高齢者の人権について、その他にどんなことが問題となっているのでしょうか。

高齢者への虐待や施設での
 不適切な身体拘束のほか、不
 動産や預貯金が知らない間に
 処分されたり、高額な商品購

地名の歴史

歴史の変遷と地名

3 12

前回、馬水の藤本澹菴が村
 人に与えた書が頼山に劣ると
 して、再び揮毫し与え直した
 との話を紹介しましたが、多
 芸多能な澹菴をして感嘆させ
 た能書家の水野頼山は、土山
 の人です。

● 墓は飯田山の麓、新屋敷の
 堤の付近の、丘の頂の水野家
 の墓地にあります。

● 表は「頼山水野貞秀先生墓
 表」とあり、背面には、明治
 三十年丁酉七月吉日 頼山先
 生門人中。墓表・股野琢先生
 書。碑文・生駒為章先生・撰
 中村知義・謹書。とあり、漢
 文二二字でその功績が刻ま
 れた彰徳碑です。

次にその碑文を読み下しま
 す。

「先生諱は貞秀、志問多と
 称す。頼山は其の号。水野氏
 父諱は貞義君の長子なり。母
 は松本氏、天保八年丁酉八月
 九日を以つて益城郡小池村に
 於て生まれ明治廿八年乙未一
 月十二日を於て卒す、享年五
 十有九。益田氏を娶り一男二
 女を生む、曰く夫は嗣、女を
 曰く夏、曰く順。先生夙に慧
 幼自ら臨池を嗜み漸く長じて
 隸書を龍山磯田翁に受く技大



水野家墓地の頼山先生の碑

いに進む。而も先生以て足れ
 りと為さざるなり。是に於て
 親しく籀を執り、斯れ以来所
 在の古書法帖八體研精、多年
 殆ど其の蘊奥を窮む、書名世
 に噪み。来り書を請う者往々
 門に填ち、贄を執る者凡そ二
 千餘人。性端嚴謹直、聲色を
 暇さず哀を没し人志を得ず。
 嗚呼先生能書は如く其の人と
 為り是の如し。然り而つして
 世は變り時は遷りて聲聞の或
 は湮滅せんことを恐るるなり。
 故に石を立て其の墓を表し
 以つて後人に告ぐ」とあり、
 師に対する弟子たちの畏敬の
 念の、碑文の原意を紹介しま
 したが、しかし明治時代の漢
 文の読み下しだけでは、なか
 なか理解が難しいものです。

益城町文化財を訪ねる会
 会長 松野國策